

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュ マンスリー

## (2020年6月号)

No.35

2020/05/29

りそなホールディングス 市場企画部

### ◆ 今月の相場見通し (サマリー)

※各マーケットコメントは5月29日 (金) 9:00現在  
※休日の実績は前営業日

|      |           | 5月28日現在<br>(矢印は4月末比) | 6月の予想 |                 |
|------|-----------|----------------------|-------|-----------------|
| 為替相場 | ドル・円 (円)  | ↗ 107.65             | 下落 ↘  | 105.00 ~ 109.00 |
|      | ユーロ・円 (円) | ↗ 119.24             | 下落 ↘  | 115.00 ~ 120.00 |
| 株式相場 | 日経平均 (円)  | ↗ 21,916             | 下落 ↘  | 19,000 ~ 22,500 |
|      | NYダウ (ドル) | ↗ 25,401             | 下落 ↘  | 22,500 ~ 27,500 |
| 長期金利 | 日本 (%)    | ⇒ -0.005             | 横ばい ⇒ | -0.10 ~ 0.05    |
|      | 米国 (%)    | ↗ 0.69               | 横ばい ⇒ | 0.55 ~ 0.90     |

### ◆ 今月の注目ポイント

#### 経済活動の再開に期待高まるも、第2波や米中対立に注意

| テーマ  | 注目度 | 今月の注目ポイント                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 景気動向 | ◎   | 【景気】先行して再開した中国、韓国、欧米の感染第2波に注目。5/25には日本も緊急事態宣言が全面解除となり、主要先進国は経済活動が再開となった。マーケットも各国で大規模な金融緩和や財政出動が行われる中、景気回復期待が先行している。一方で、経済活動の再開は感染再拡大の可能性を常に示す。先に再開した中国、韓国、欧米諸国の第2波の動向には引き続き注意が必要。また新興国での感染が拡大していることも留意。                                                                                                                                                |
| 金融政策 | ○   | 【各国中銀】FRBのYCC導入に注目。前回のFOMCでFRBは日銀もやっているYCC(イールドカーブコントロール)について言及しており、5/27にはFRB高官もYCC導入を「極めて真剣に検討している」と発言。6/9-10のFOMCでも何らかの議論が行われる可能性があり、注目される。                                                                                                                                                                                                          |
| 政治   | ◎   | 【米中対立再燃】11月の大統領選を控える中、トランプ大統領は支持層へのアピールから中国に対する強気の発言を続けている。そのような中、5/22から行われた中国全人代では、「香港国家安全法」が採択された。同法が制定となれば、香港市民の表現の自由や独立の主張が今後違法となる可能性がある。米国では昨年11月に「2019年香港人権・民主主義法」が成立しており、中国への制裁を科すことができる。また、5/27には「ウイグル人権法案」が議会で可決。他にも新型コロナウイルスの感染拡大の責任を問う「COVID19責任法」を一部共和党議員が提出するなどしている。昨年のような関税の応酬にはならないと見るが、先鋭化しつつある米中対立には注意。特に再度中国との制裁関税の議論が出れば景気への打撃が大きい。 |
| その他  | ○   | 【原油価格動向】足元順調に減産が進んでおり、先進国で経済活動も再開される中、原油価格は落ち着いた値動きとなっている。6/9のOPEC+会合でサウジとロシアが減産の延長で合意できるか、市場の注目が集まる。                                                                                                                                                                                                                                                  |

#### 今月の見通し

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 為替   | <p>【ドル円】ドル円は下落を予想。米中対立やコロナ感染再拡大といったリスク材料も燃るなかで、足元の経済回復期待による急速な株高は修正されやすい。月末にかけてもみ合いの動きから、小幅にレンジを下方シフトするものと想定する。</p> <p>【ユーロ】ユーロドルは下落、ユーロ円は下落。①リスク選好の巻き戻しでドル高・ユーロ安となりやすいこと②EU復興基金の成立が難航すること③ECB理事会で、積極的な緩和策に踏み切る可能性があることから、ユーロは売られやすい。</p>                                       |
| 株式   | <p>【日本株】日本株は下落。足元では先進国の経済活動再開等から買い戻しの動きが入っており、底堅い値動きとなっている。一方で、経済活動再開に伴う感染再拡大が懸念されることや、米中対立の先鋭化も懸念材料。景気や企業業績対比割高感もあり、月後半にかけて、株価は下落に転じるものと予想。</p> <p>【米国株】米国株は下落。月初は先進国の経済活動再開に伴う景気回復期待や、各国の金融・財政政策が下支えとなり底堅い動きを予想。一方、足元でハイテク企業を中心に割高感が高まっていることや、米中対立の先鋭化も懸念され、月末にかけては下落を予想。</p> |
| 長期金利 | <p>【円金利】日本国債は金利横ばいを予想。第2次補正予算による増発も、日銀による積極的な国債購入スタンスから金利上昇余地は限定的。</p> <p>【米金利】米国債は金利横ばいを予想。FRBによるYCCや新たな量的緩和策導入への思惑から金利は上昇しづらい。一方で、マイナス金利導入の可能性は低く、金利低下余地も限定的であり、横ばい圏での推移を見込む。</p>                                                                                             |

### ◆ 今月の重要日程

|         |   |               |         |   |                |
|---------|---|---------------|---------|---|----------------|
| 1日 (月)  | 米 | 5月ISM製造業      | 10日 (水) | 他 | G7サミット (予定)    |
| 4日 (木)  | 欧 | ECB理事会 (結果発表) | 15日 (月) | 中 | 5月生産・小売・投資     |
| 5日 (金)  | 米 | 5月雇用統計        | 16日 (火) | 日 | 日銀金融政策決定会合     |
| 9日 (火)  | 他 | OPEC総会        | 19日 (金) | 日 | 5月CPI          |
| 10日 (水) | 米 | 5月CPI         | 23日 (火) | 欧 | 6月PMI          |
| 10日 (水) | 米 | FOMC (結果発表)   | 30日 (火) | 英 | EU離脱移行期間延長決定期限 |

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年6月号)

2020/05/29

## ◆ 今月の相場見通し① 為替

### ドル 円

米ドル・円



ドル・円は下落

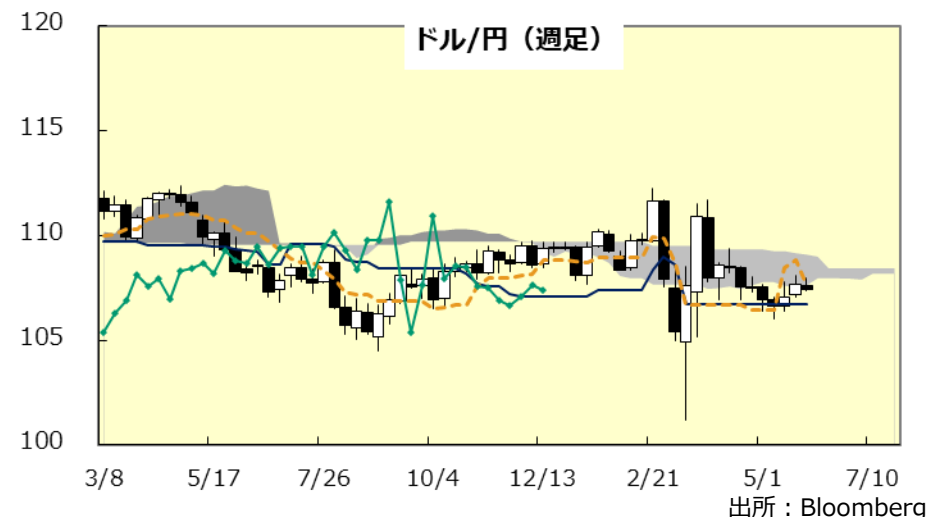
**105.00 – 109.00円**

#### ドル円は下落を予想

5月のドル円の値動きは、月初から概ね106-107円台の狭いレンジでの推移が続いた。しかし、主要国の経済制限措置が徐々に解除されたことによる経済活動回復に向けた期待と新型コロナウイルスワクチン開発に向けた期待からリスクセンチメントが改善すると、株高に連れてドル円も107円台へとレンジを切り上げた。

先行きについても、リスクセンチメントでドル・円が同方向に動きやすく、また日米の金融当局がともに緩和姿勢を鮮明とすることで、ドル円は当面動きが出づらいだろう。米国でマイナス金利導入議論が高まればドル安の動きも出るが、FRB高官からは現状導入に否定的な考えが示されている。

但し、米中対立やコロナ感染再拡大といったリスク材料も燦るなかで、足元の経済回復期待による急速な株高は修正されやすい。月末にかけてもみ合いの動きから小幅にレンジを下方シフトするものと想定する。



### ユーロ

ユーロドル



ユーロドルは下落

**1.07 – 1.12ドル**

ユーロ円



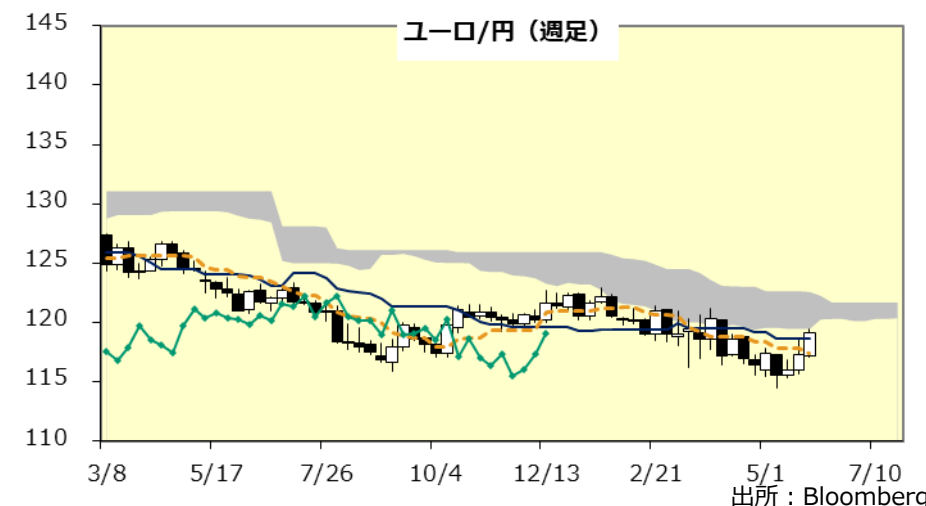
ユーロ円は下落

**115.00 – 120.00円**

#### ユーロドルは下落、ユーロ円は下落を予想

5月のユーロ相場は、前半は上値の重い展開が続いたものの、月末にかけてリスクセンチメントの好転やEU復興基金について独仏が合意、欧州委員会が期待が高まったことから1.1ドル台を回復した。

6月のユーロ相場は以下3点から下落を予想する。①ネガティブ材料も燦る中で足元のリスク選好相場が修正される局面ではドル高となり、ユーロには下押し圧力がかかる。②EU復興基金に関しては、欧州委員会により7,500億ユーロ規模の原案が提示された。今後、議論が進むとみられるが、オーストリア等比較的財政健全な国からは基金の3分の2が補助金となっていること等から反対論も強く、難航も予想される。③月初のECB理事会では、新型コロナウイルスの影響を受けて、量的緩和の拡大やリスク資産の買入等、積極的な緩和策に踏み切る可能性がある。



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年6月号)

2020/05/29

## ◆ 今月の相場見通し② 株式、長期金利

### 株 式 見 通 し



日経平均



日経平均は下落

**19,000 – 22,500円**

#### 日本株は下落を予想。

足元では先進国の経済活動再開等から買い戻しの動きが入っており、底堅い値動きとなっている。各国で大規模な金融緩和や財政出動が行われていることも支えとなっている。一方で、経済活動再開に伴う感染再拡大が懸念されることや、米中対立の先鋭化も懸念材料。景気や企業業績対比割高感もあり、月後半にかけて、株価は下落に転じるものと予想。

NYダウ



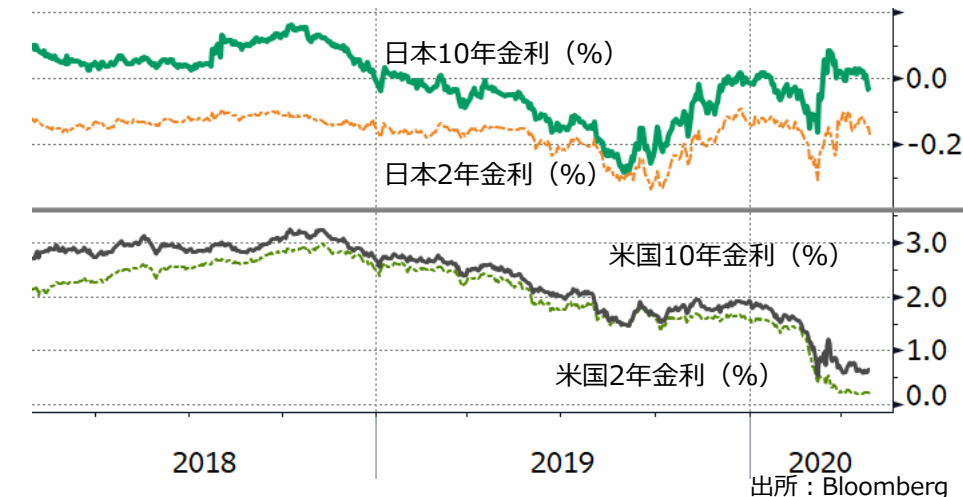
ダウは下落

**22,500 – 27,500ドル**

#### 米国株は下落を予想。

月初は先進国の経済活動再開に伴う景気回復期待や、各国の金融・財政政策が下支えとなり底堅い動きを予想。一方、足元でハイテク企業を中心に割高感が高まっていることや、経済活動再開に伴う第2波の懸念、また全人代で「香港国家安全法」が採択されるなど米中対立の先鋭化も懸念され、月末にかけては下落を予想。

### 長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年



金利は横ばい

**▲0.10 – 0.05%**

#### 日本国債は金利横ばいを予想。

第2次補正予算が閣議決定となり、7月以降の大幅な国債増発が決定。消化には日銀による買入オペがカギとなる。具体的な日銀のスタンスが明確でないことから需給懸念はくすぶりやすいであろうが、政府との協調により金利を抑制するスタンスを鮮明にしており、一方向の金利上昇とはなりにくい。日本金利はもみ合いの動きが継続するであろう。

米国債10年



金利は上昇

**0.55 – 0.90%**

#### 米国債は金利横ばいを予想。

6/9-10に開催されるFOMCが最大の焦点。今後のYCC(イールドカーブコントロール)や新たな量的緩和策導入について積極的に議論が進められる可能性がある。今回YCC導入が見送られても、緩和的な金融政策への期待感から金利は上昇しづらい。一方で、マイナス金利導入の可能性も低いことから金利低下余地も限定的。横ばい圏での推移を見込む。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。



◎ 注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュ マンスリー

## (2020年6月号)

2020/05/29

### ◆ マーケットカレンダー

|       | 日本                                                         | 米国                        | その他                                        |
|-------|------------------------------------------------------------|---------------------------|--------------------------------------------|
| 6月1日  | 1~3月期法人企業統計                                                | 4月建設支出<br>5月ISM製造業景況感指数   |                                            |
| 6月2日  | 10年債入札<br>5月マネタリーベース                                       |                           | (豪) 準備銀行理事会                                |
| 6月3日  |                                                            | 5月ADP民間雇用調査               |                                            |
| 6月4日  | 30年債入札                                                     | 4月貿易収支                    | (EU) 4月小売売上高<br>(EU) ECB定例理事会              |
| 6月5日  | 4月景気動向指数<br>国庫短期証券(3ヶ月)                                    | 4月消費者信用残高<br>5月雇用統計       |                                            |
| 6月6日  |                                                            |                           | (中) 5月貿易統計                                 |
| 6月8日  | 1-3月期GDP2次速報値<br>4月国際収支<br>5月景気ウォッチャー調査<br>5月貸出・預金動向       |                           |                                            |
| 6月9日  | 4月毎月勤労統計<br>5月マネーストック<br>国庫短期証券(6ヶ月)                       | FOMC(~10日)                |                                            |
| 6月10日 | 4月機械受注                                                     | 5月CPI<br>5月財政収支           | (中) 5月CPI                                  |
| 6月11日 | 4~6月期法人企業景気予測調査<br>流動性供給入札(残存期間15.5年超39年未満)                |                           |                                            |
| 6月12日 | 4月稼働率<br>国庫短期証券(3ヶ月)                                       | 5月輸入物価指数                  | (EU) 4月鉱工業生産                               |
| 6月15日 | 4月第3次産業活動指数<br>日銀金融政策決定会合(~16日)<br>流動性供給入札(残存期間5年超15.5年以下) | 4月対米証券投資<br>6月NY連銀製造業景況指数 | (中) 5月固定資産投資<br>(中) 5月鉱工業生産<br>(中) 5月小売売上高 |

|       | 日本                                                 | 米国                              | その他                           |
|-------|----------------------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|
| 6月16日 | 黒田日銀総裁定例会見                                         | 4月企業在庫<br>5月鉱工業生産<br>5月小売売上高    | (独) 6月ZEW景気期待指数               |
| 6月17日 | 5月貿易統計                                             | 5月住宅着工                          |                               |
| 6月18日 | 国庫短期証券(1年)                                         | 5月景気先行指数<br>6月フィラデルフィア連銀製造業景況指数 | (英) BOE金融政策委員会                |
| 6月19日 | 5月CPI<br>国庫短期証券(3ヶ月)<br>日銀金融政策決定会合議事要旨(4/27~28開催分) |                                 |                               |
| 6月22日 |                                                    | 5月シカゴ連銀全米活動指数<br>5月中古住宅販売件数     |                               |
| 6月23日 | 5年債入札                                              | 5月新築住宅販売<br>6月リッチモンド連銀製造業景況指数   | (EU) 6月ユーロ圏PMI                |
| 6月24日 |                                                    |                                 | (NZ) 準備銀行理事会<br>(独) 6月IFO景況指数 |
| 6月25日 | 20年債入札<br>4月全産業活動指数<br>資金循環統計                      | 1-3月期GDP確報値                     |                               |
| 6月26日 | 国庫短期証券(3ヶ月)                                        | 5月個人所得・消費支出                     |                               |
| 6月29日 |                                                    | 5月中古住宅販売成約指数                    |                               |
| 6月30日 | 2年債入札<br>5月雇用統計<br>5月鉱工業生産                         | 4月S&P1700 <sup>®</sup> CS住宅価格指数 | (中) 6月PMI製造業                  |

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年6月号)

2020/05/29

りそなホールディングス 市場企画部

## ◆ 景気の現状 日本

日本経済は緊急事態宣言発令の影響で急速に悪化した。個人消費や外需を中心に厳しい状態が続いている。感染拡大抑制に4-5月を底として徐々に回復に向かうとみられるが、景気の落ち込みに比べ回復ペースは緩やかとなる。

### 鉱工業生産

|        |          |         |
|--------|----------|---------|
| 4月の前月比 | ▲9.1%    |         |
| 生産予測   | 5月：▲4.1% | 6月：3.9% |

15業種中14業種でマイナスも自動車工業が前月比▲33.3%とインパクト大きい。5月も緊急事態宣言の影響が残る中で減産が続くとみられる。

### 貿易統計

|         | 3月     | 4月       |
|---------|--------|----------|
| 貿易収支    | 49億円   | ▲9,304億円 |
| 輸出(前年比) | ▲11.7% | ▲21.9%   |
| 輸入(前年比) | ▲5.0%  | ▲7.2%    |

米国向けの輸出が前年比▲37.8%、EU向けが▲28.0%と大幅減少。特に自動車の減少が目立つ。

### 景気ウォッチャー調査

|        | 3月   | 4月  |
|--------|------|-----|
| 現状判断DI | 14.2 | 7.9 |

現状判断、先行き判断ともに過去最低水準を更新。緊急事態宣言下で景況感の悪化が鮮明も、5月は底入れの可能性が高い。

### 機械受注

|         | 前月比   | 金額      |
|---------|-------|---------|
| 3月の民需コア | ▲0.4% | 9,791億円 |

減少幅は限定的も一部業種の大型案件でかさ上げされた可能性。4-6月期は前期比▲0.9%の見通しも、コロナ影響による下振れリスク大きい。

### 全国消費者物価指数(前年比)

|                        | 3月   | 4月    |
|------------------------|------|-------|
| 総合                     | 0.4% | 0.1%  |
| コア<br>(除く生鮮食品)         | 0.4% | ▲0.2% |
| コアコア<br>(除く生鮮食品・エネルギー) | 0.6% | 0.2%  |

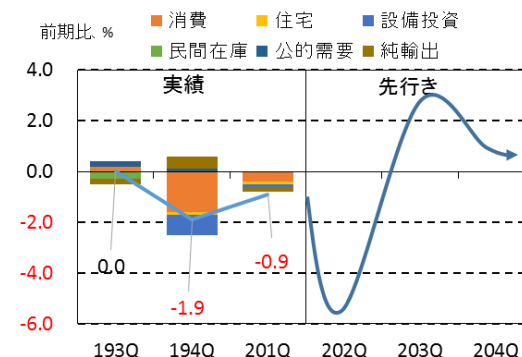
コロナによる原油安に加えて、自賠責保険料の下落や高等教育の一部無償化といった制度要因によりコア物価上昇率はマイナスに転換。

## ★ GDP見通し ★

・1-3月期のGDP1次速報値は、3月末にかけて新型コロナウイルスの影響が急速に広がったことで、消費増税や台風の影響で弱含んだ前期から更に▲0.9% (年率▲3.4%) のマイナス成長となった。

・4-6月期は国内でも緊急事態宣言が発令されたことで、大幅なマイナス成長が予想される。7-9月期以降は回復に向かうが、感染再拡大への懸念を完全に払しょくできない中では、戻りは緩やかとならざるをえず。20年度成長率は▲5.0%、21年度は+3.5%と予測している。

| 内訳は寄与度<br>(%, %pt) | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|--------------------|--------|--------|--------|
|                    | 実績     | 予測     | 予測     |
| 実質GDP              | -0.1   | -5.0   | 3.5    |
| 個人消費               | -0.3   | -2.7   | 1.9    |
| 住宅投資               | 0.0    | -0.2   | 0.1    |
| 設備投資               | -0.1   | -1.1   | 0.8    |
| 在庫投資               | -0.1   | -0.1   | 0.0    |
| 公的需要               | 0.6    | 0.4    | 0.1    |
| 外需                 | -0.2   | -1.2   | 0.5    |



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

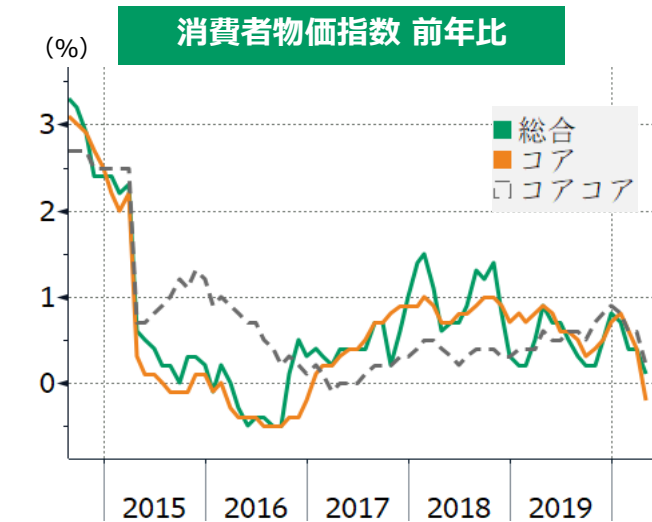
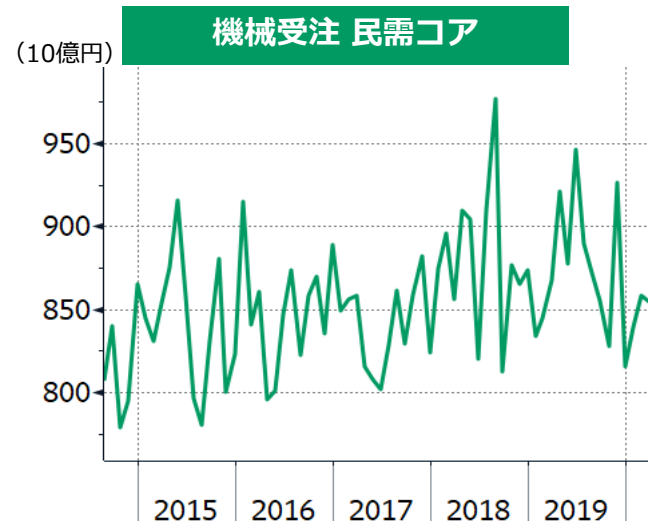
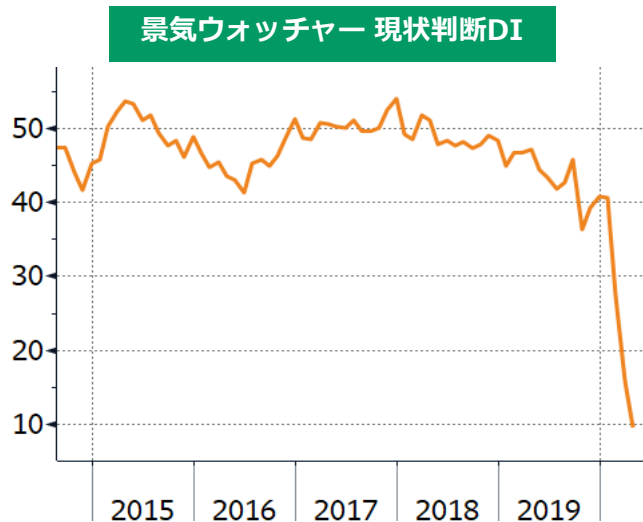
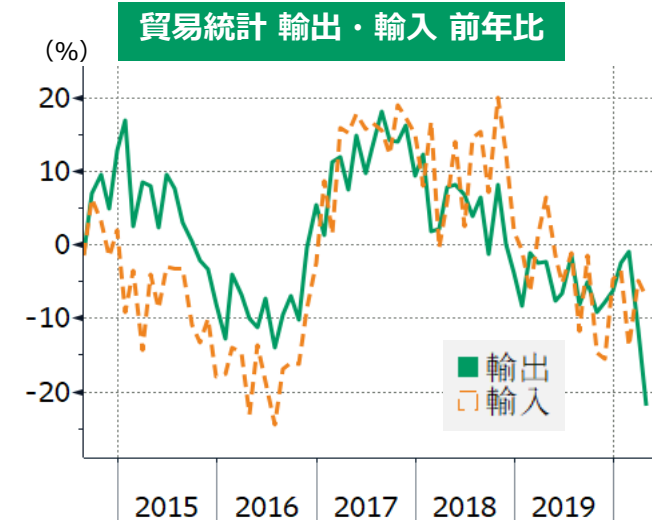
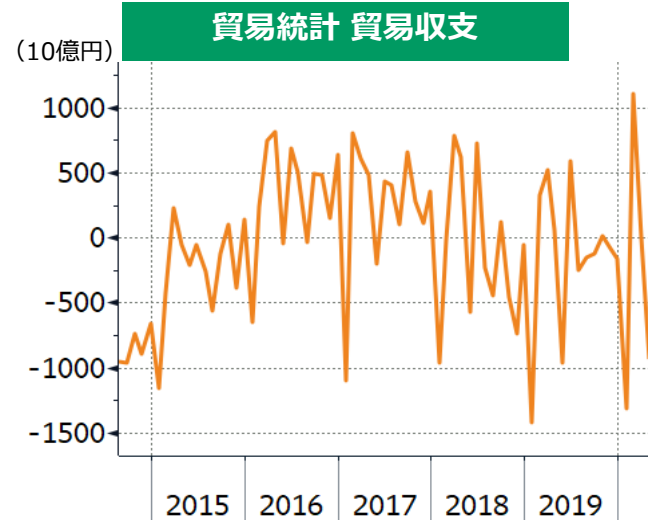
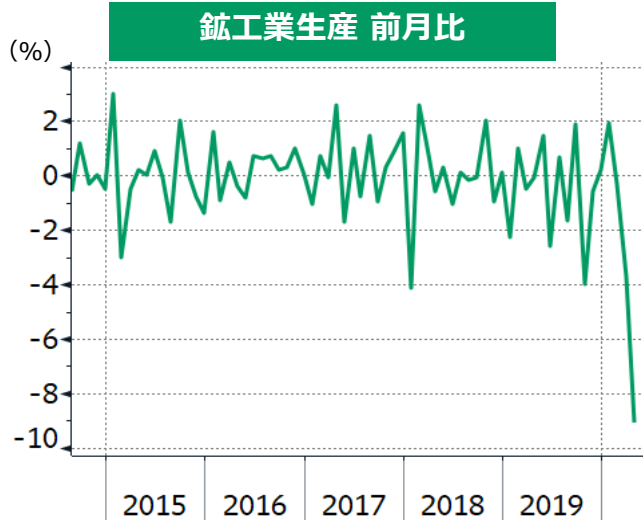


# りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年6月号)

2020/05/29  
りそなホールディングス 市場企画部

## ◆ 日本 チャート集

(出所：Bloomberg)



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュ マンスリー

## (2020年6月号)

2020/05/29

### ◆ 景気の現状 米国

3月後半以降の経済活動制限により急速に雇用悪化が進行。4-6月GDPは▲30%超のマイナス成長の見通しも、足元では経済再開の動きが優勢で、先行きは緩やかに持ち直すとみられる。

#### 小売売上高

4月の前月比 ▲ 16.4%

前月需要が増加した飲食料品等も反動減となり、大幅なマイナスとなった。外出制限の影響で無店舗小売は前月比+8.4%と唯一伸びを示す。

#### 勇逸雇用統計

|                | 3月      | 4月         |
|----------------|---------|------------|
| 非農業部門雇用者数（前月差） | ▲88.1万人 | ▲2,053.7万人 |
| 失業率            | 4.4%    | 14.7%      |
| 平均時給（前年比）      | 3.1%    | 7.9%       |

幅広い業種に影響が拡大し過去最大の雇用者数減。失業率も14.7%と急速に雇用悪化。平均時給の急伸は雇用減少が低賃金の労働者を中心に進んだことが要因。

#### 消費者物価指数（前年比）

|                | 3月   | 4月   |
|----------------|------|------|
| 総合             | 1.5% | 0.3% |
| コア（除く食品・エネルギー） | 2.1% | 1.4% |

一部品目で新型コロナウイルスの影響が顕著となっているが、現時点では物価全体への波及は限定的。インフレ率は当面低位推移が予想される。

#### ISM製造業指数

|  | 3月   | 4月   |
|--|------|------|
|  | 49.1 | 41.5 |

入荷遅延指数が経済実態に反して指数を押し上げており、生産、新規受注、雇用が20台に落ち込むなど内容は数値以上に悪い。

### ◆ 景気の現状 欧州・中国

欧州主要国ではコロナ感染が抑制傾向にある中で、徐々に厳しい経済制限措置が緩和されつつある。中国経済は持ち直し傾向も相対的に消費の戻りが鈍くなっている。

#### ドイツ

|          | 前月比   |
|----------|-------|
| 3月の鉱工業生産 | ▲9.2% |
| 3月の小売売上高 | ▲5.6% |

|            | 4月   | 5月   |
|------------|------|------|
| IFO企業景況感指数 | 74.2 | 79.5 |
| ZEW景況感期待指数 | 28.2 | 51.0 |

3月の小売・生産データは大きく悪化も、ドイツは4月後半から経済制限措置が一部緩和され、足元では景況感が回復傾向にある。

#### ユーロ圏

|          | 3月   | 4月   |
|----------|------|------|
| CPI（前年比） | 0.7% | 0.3% |
|          | 4月   | 5月   |
| 総合PMI    | 13.6 | 30.5 |
| 製造業PMI   | 33.4 | 39.5 |

各国のロックダウンが4月下旬～5月上旬にかけて緩和され、5月PMIは過去最低となった4月の水準からは回復。ただし依然として低水準。

#### 中国

|                | 3月     | 4月     |
|----------------|--------|--------|
| 鉱工業生産（前年比）     | ▲1.1%  | 3.9%   |
| 小売売上高（前年比）     | ▲15.8% | ▲7.5%  |
| 固定資産投資（年初来前年比） | ▲16.1% | ▲10.3% |
| 貿易統計（輸出：前年比）   | ▲6.6%  | 3.5%   |
|                | 3月     | 4月     |
| 製造業PMI         | 52.0   | 50.8   |

3月はPMIの水準が急回復し、経済活動が徐々に再開していることが示唆される。一方、3月小売は▲15.8%と消費の戻りが比較的鈍い。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。



◎ 注意事項をよくお読み下さい

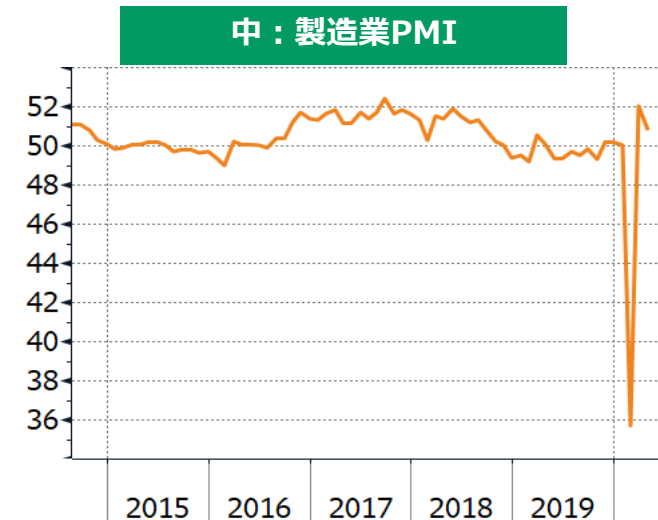
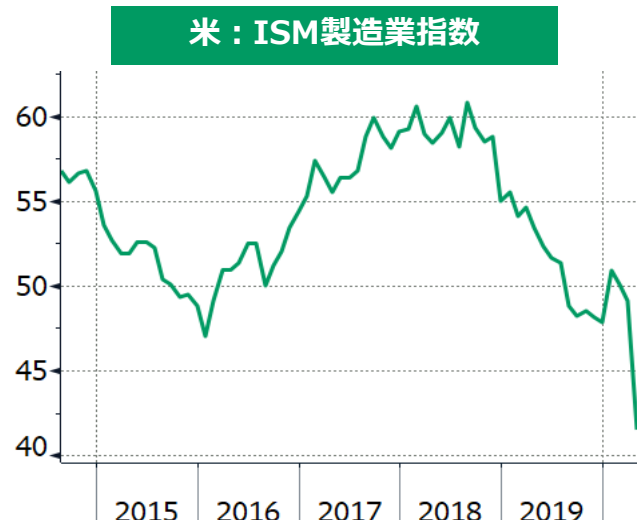
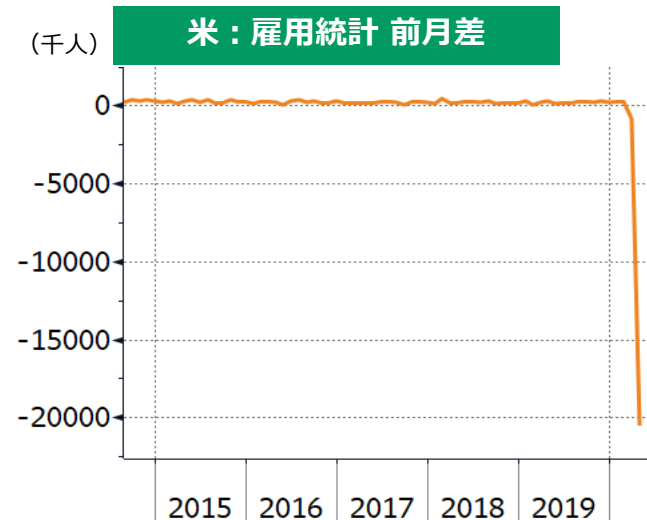
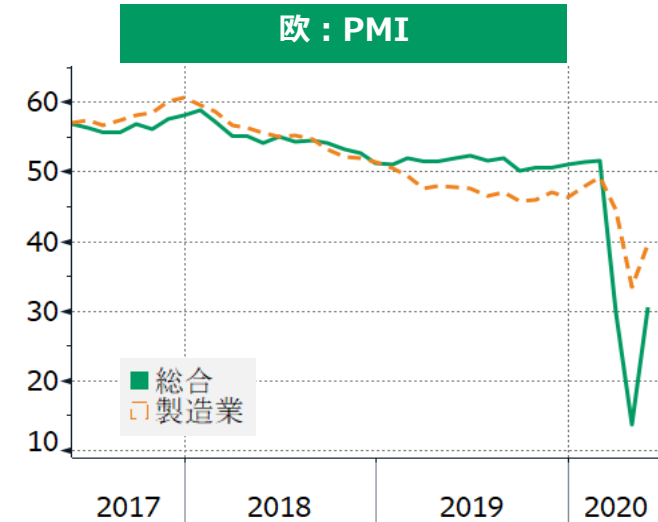
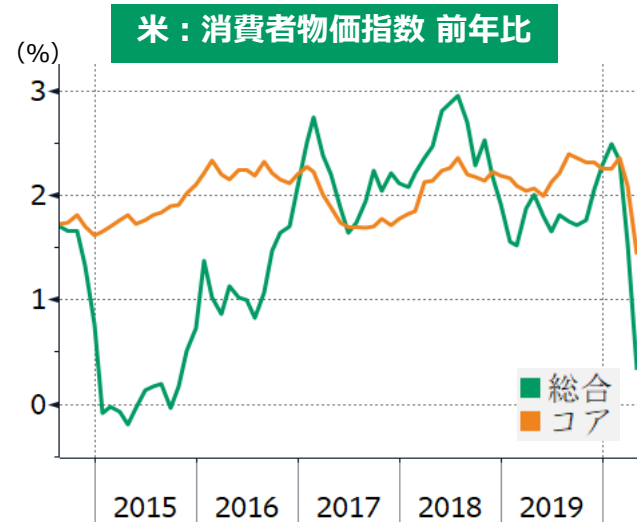
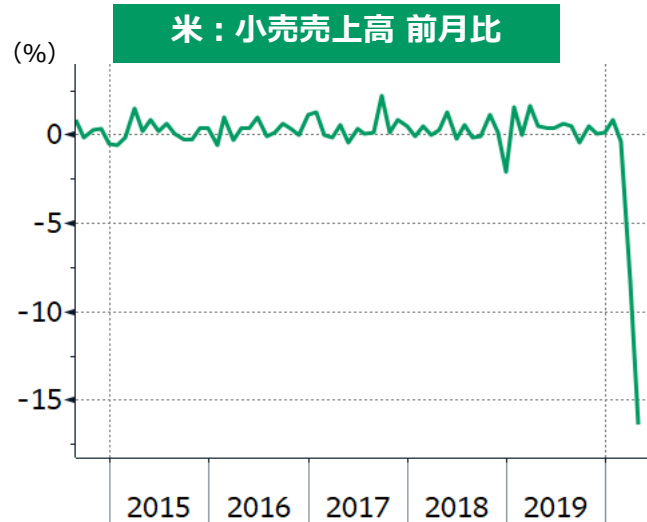


# りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年6月号)

2020/05/29  
りそなホールディングス 市場企画部

## ◆ その他 チャート集

(出所: Bloomberg)



◎ 注意事項  
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。